

資料 4

標準化人材に関するアカデミアとの連携策について

一般社団法人研究・イノベーション学会「標準化の科学」研究懇談会 キックオフ会合

2024年4月25日（木） 15時～17時30分

「標準化の科学」研究懇談会立ち上げに関する議論

2024年度 人工知能学会全国大会（第38回） 2024年5月29日（水） 13:30～17:10

KS-14 AIの研究開発・社会実装・普及からみるイノベーション・メカニズムの分析

日本非破壊検査協会「2024年度非破壊検査総合シンポジウム」特別講演

2024年6月6日（木） 16:45～17:45

標準化とアカデミアの連携に関する講演（長岡技術科学大学 井原様・経済産業省 武重様）

一般社団法人地理情報システム学会 地理空間情報標準調査会（SIG-GIS）

- 日時…2024年8月31日（土） 15:00 - 17:00
- 主題…地理空間情報分野の標準化に関する公開型情報交換会
- 議題
 - ①地理空間情報に関する標準化動向
 - ②標準間の整合性確保に向けた取り組み
 - ③標準化人材の確保と育成
- 参加者…学会会員

横幹連合 第6回横幹会議

- 日時…2024年9月18日（水）13時30分～16時30分（サピアタワー会議室）
- 主題…標準人材育成に関する講演・アカデミア連携についての討論
- 主題（概要）…小太刀慶明氏（経済産業省国際電気標準課長）の講演、筑波大、長岡技大からの人材育成教育プログラムの説明、総合討論（横幹連合の国際標準化とアカデミアへの協力の方向）
 - 学会に関連した標準化の学術研究成果発表の場の提供、学会に関連した標準・認証に関する論文等の掲載→横幹連合の関連会合を発表の場として提供、機関紙への掲載すること等を検討
 - 標準化活動に対する若手研究者の認知度向上→コンファレンス・フォーラム・機関誌で周知することを検討
 - アカデミアと産業界が連携した標準化や認証の取り組みの促進（学術関連分野）→調査研究委員会の立ち上げを検討（多様な学会の参加が可能なプラットフォームの形成）
- 参加者…横幹連合の会員学会

第73回高分子討論会

- 日時…2024年9月27日（金）12時～13時
- 主題…「化学・材料業界におけるルールメイキングを活用したイノベーションと研究の協創」に関するパネルディスカッション（イノベ学会等）
- 参加者…高分子学会員

横幹連合 第15回 横幹連合コンファレンスにおけるパネル討論

- 2024年12月15日(日) 10時～12時
- テーマ名…横幹知で支援すべき国際標準化活動とそれを担う人材育成
- パネリスト…椿広計会長、山本渉慶応大教授、本多慶応大名誉教授、原東京大准教授、藤代
- 討論内容…分野横断的な社会的インパクトを有する基幹的・先端的国際標準化活動、「異なる学会の知を統合する必要がある横断的国際標準化活動における産官学の連携のありかたを支援し、標準化に必要となる人材を供給し次世代につなぐプラットフォームの現状と今後のあり方を議論
- 今後の方向性…横幹連合としては、このパネル討論を受けて、連合に調査研究委員会を設置し、その種のプラットフォーム形成に関連団体と協力。

エネルギー・資源学会

カーボンニュートラルのための標準化戦略とそれに係る人材育成事業に関するセミナーまたはセッションの実施

- カーボンニュートラルのための標準化戦略に資するセミナーまたはセッションの実施
- カーボンニュートラルのための標準化戦略に係る人材育成事業に関するセミナーまたはセッションの実施
- 標準化をテーマとした情報の発信

横幹連合、連合会員学会、会員以外の学会（サービス学会等）間の「プラットフォーム形成」に関する打ち合わせ（１月30日、31日及び2月5日）の実施

電気学会 年次大会

- 2025年3月19日（水）9時～12時（明治大学）
- 「規格・標準化活動に関するシンポジウム」における「日本型標準加速化モデル」に関する講演および第2部パネルディスカッション（経産省担当課長登壇予定）
- 参加予定者…電気学会会員

令和5年度に実施したヒアリングを踏まえ、標準化関係学会を以下の通りカテゴライズ

【カテゴリー1】

学会の国際標準活動に一定数以上のアカデミアが参加しており、定常的にISO等の国際会議に出席し、かつ主体的な提案活動を実施していることから、学会内部で人材育成における講師等を調達できる可能性があること。また既に学会広報誌、学会年次大会における報告、国際標準化活動の報告セミナー等を実施。

【カテゴリー2】

学会本体とは別に国際標準化活動にかかる組織を設置し、積極的に国際標準化活動に参加しているが、同組織での活動の主体は企業であり、学会本体とのブリッジングが未確立。

【カテゴリー3】

学会名で国際標準化活動を実施しているものの、学会自体が担当しているテーマは少なく、該当TC等への対応主体は関係工業会。

【カテゴリー4】

学会にアカデミアがほとんど参加していない。過去の経緯から学会の「事務局」が国内委員会の事務局を担っているのみ。

上記カテゴリーに応じた学会への依頼について

実施いただいた(含予定)学会

- カテゴリー1の学会については、今までの普及活動の実績を踏まえて、若手アカデミアを対象としたセミナー等の実施をご検討いただく。
- カテゴリー2の学会については、活動の主体が産業界であるものの、アカデミアの方々の協力もいただいていることから、学会本体の活動の一環として、国際標準化に関する報告会、セミナー等の実施をご検討いただく。
- カテゴリー1及びカテゴリー2の学会については、上記の活動にとどまらずに具体的な人材育成に関わる活動についてもお検討いただく。

【国内審議団体以外の学会について】

- 国内審議団体ではないが、標準化活動に関心を有している学会、規格のユーザーとして関心を有している学会についても、標準化の重要性をご理解・ご認識いただくセミナー等の開催を検討。

* 例えば横断型基幹科学技術連合を通じて声をかける等

日本非破壊検査協会、地理情報システム学会、高分子学会、電気学会

横断型基幹科学技術連合、研究・イノベーション学会、人工知能学会、エネルギー・資源学会

- 横断型基幹科学技術連合会員学会(品質管理学会等)
- サービス学会等

- 昨今ISO,IECでは、先端技術、分野横断的な技術に関する国際標準化テーマが数多く提案され、また、基礎的かつオーソドックスな技術分野についても他の分野における標準化情報が必要なことから、他の学会との連携が重要であること。
- 単独の学会で担当する国際規格については基礎的なものが多いことから当該規格の改正機会は多くなく、人材育成を実施する際の「OJT」としてのテーマが少ないこと。
- 先端技術分野では研究開発から社会実装（標準化）までの期間は短く、学会単体だけではなく産業界との連携が重要。例えば学会をプラットフォームとし、標準化をツールとした産業界、大学、国研等の連携の場（オープンイノベーションの一環）も必要であること。
- 研究者の標準化活動への参加の重要性は理解されているものの、その取り組み成果を発表する場が少ないこと。
- 標準化活動単体での評価は難しく、アカデミアの評価の基軸は論文であるが、例えば研究者の方々の研究と標準化活動の関係性等に関する論文の発表の場が極めて少ないこと。
- こうした標準化活動を評価する場も極めて少ないこと。